

大浜校区(博多区)で支援防災講座 防災マップ作りにも防災士がサポート

福岡市博多区の大浜地区で防災講座と防災マップ作りが2回に分けて行われ、博多区役所地域支援課の支援要請に応えて博多あんリーダー会の小森 勝輝代表幹事(博多支部長)防災士ら各支部の防災士延べ10数人が携わりました。

「地域の防災を考えま専科く地域を守ろう自分たちで」がメインテーマ。校区自主防災組織の関係者や町内会長、それに一般住民ら延べ約70人が参加しました。

1回目は、校区内で会社を経営し、自らも防災士である山本 一さんが「防災は人の命を大事にする心のありようが出発点」などと講義。その上で、中心になってDIG(災害図上訓練)を実施しました。

地図上で地域の特徴を掴み、災害が発生した時にどう対処するかについて考える授業で、約40人が参加、他の防災士がサポート役に回りました。

目を改めて2回目は、参加者30人が防災士グループのサポートで校区内を回り、地図を広げながら危険か所などをチェック、このデータを基に防災マップを作成する。

あんあんリーダー会博多支部は、これを機会に地域支援課との連携を一層強め、協働作業によって防災意識の浸透を図っていく方針。



大浜校区防災講座で公演する山本防災士



熱気あふれた大浜校区防災講座

町内に2つ目の自主防災会が誕生 居住者台帳や要援護者リストも整備

福岡市中央区今泉2丁目のマンションに居住者同士で助け合う自主防災会が新たに出来ました。一足先に近くの高層マンション・天神ロイヤルガーデン(15階建て)108世帯が立ち上げており、同じ町内で2つのマンションに誕生したことになります。

こんど立ち上げたのは今泉コーポラス(11階建て)49世帯で、築後27年のマンション。県西方沖地震でかなりの損傷を受けました。高齢化の傾向はここでも例外ではなく、例えば、居住世帯の13%が70歳以上ですが、60歳台の後半に近い層を加えると高齢化率は33%に高まります。独り暮らしのお年寄りも5指を下りません。

管理組合理事会(白垣 正義理事長)では、かねてから共助組織の必要性が話題に上っていましたが、近隣の天神ロイヤルガーデンに設立されたのを機に機運が一気に盛り上がり、理事会でまとめた自主防災会設立議案を管理組合定期総会に提案、万場一致で承認されました。

この間、天神ロイヤルガーデンに立ち上げたあんあんリーダー会員の阿比留 哲・防災士が、今泉コーポラスの規模に合った組織図や設立趣旨書、会規約などを準備、理事会と打ち合わせを重ねてきました。

天神ロイヤルガーデンの場合とほぼ同じように管理組合に理事会とは別個の組織として作りしました。理事長が会長を兼ねるほか現役の理事全員が会の役員に横滑りし、理事会との風通しや透明性の確保を図っています。事業計画の本格的な肉付け作業はこれからですが、介助の必要



自主防災会を新たに立ち上げた「今泉コーポラス」

な要援護者を中心とした避難誘導訓練や防火・救出、負傷者の救護、さらには食糧の備蓄・炊き出しといった「生活防衛」の訓練などを積み重ね、非常に備えることにしています。「防災のいのち綱」とも言われる全戸世帯台帳の整備と要援護者のリストも最近、居住者の協力で作りあげ、防災組織に厚みができました。

防災に強い地域づくりを勉強 「対話型」がセミナーを活性化

安全、安心の地域づくりを目指す「よみうり防災セミナー」が、南区の三宅公民館で開かれました。三宅校区自治協議会の役員や一般住民、それに中学生ら約70人が参加、住民同士の交流・連携こそ防災に強い地域づくりに不可欠の要件であることを、参加者は改めて認識していたようです。

中央消防署予防課の森田 浩章さんが中越地震(新潟県)2004年のボランティア体験を基に地域防災の基本についての考えを述べ、その上でユーモアを交えながら「CCR」(コミュニケーション、クリン、ルール)を「絆とルールを大切にす美しく安全な地域づくりに生かそう」と訴えました。

南支部長の砥上 辰繁・防災士をメインファシリテーターにあんあんリーダー会による防災クイズやクロスロードゲームを行いました。その際にパワーポイント画像を使わずに進行させたのが特長。参加者の目を講師やメインファシリテーター、



クロスロードの「あなたならどうする！」の討論場面

ーブルファシリテーターにクギ付けにさせるため「対話型セミナー」とし、その結果、大いに理解を深めてもらうことが出来た「ようです。参加者の多くからも「分かりやすくてためになった」とか「面白かった」などといった声がかれました。

盛り上がった 「防災士候補」の懇談会



盛り上がる第5期生の懇談会

博多あん(安全)あん(安心)塾(福岡市、読売新聞西部本社共同開催)で5月から「防災講座」を受講してきた第5期生(90人)による懇談会が、このほど同本社10階レストランで催され、43人が参加しました。

5期生90人は11月にかけて毎月2回、西部本社1階のよみうりプラザで開かれてきた「防災講座」を受講。地震学や気象学をはじめ水害、台風、津波など災害の基礎知識を学んだほか

現場での医療や救命処置、避難所での対応、それに危機管理など実践に即した学習を積み重ねてきました。

懇談会には、あんあんリーダー会からも代表幹事の鹿毛 勝昭・防災士ら先輩格9人が参加、元気に盛り上がる後輩の輪に加わり、これまでに行ってきた防災の実践活動などについて語り合っていました。

90人は、防災士資格取得試験を受け、晴れて新年からの活躍が期待されています。



西戸崎防災田中会長挨拶



熱心に関係者の話に聞き入る
校区の防災リーダーたち

セミナーには、博多
あんあんリーダー会
の防災士約10人が各
支部から駆けつけ、力
強い支えになってくれ
ました。

「しなければ、目覚め
た思いです」と話して
いました。

防災に強い地域リーダーの育成を
目指す福岡市東区・西戸崎校区自治
協議会(田中 忠昭会長)は、読売新聞
西部本社の協力で「防災セミナー」を開
き、自らの問題として取り組むべき防
災の基本などについて学習しました。
会場の西戸崎公民館には自治会長を
はじめ防災関係者ら約40人が参加、
防災の知識を学び取ろうとする熱い雰
囲気に包まれました。まず、阪神・淡
路大震災などの記録映像・読売新聞社
など製作)が上映され、巨大地震の恐
ろしさを心に刻みつけました。
また、新聞記事や写真を教材に今夏
の豪雨災害についても学びましたが、同
西部本社防災セミナー事務局の南隆
洋事務局長は講演を通して行政や消
防、警察、自衛隊など公的救援機関の
限界を指摘、その上で、自分の命は
自分で守る自助、助け合いの住民
力を生かした共助の必要性を訴え
ました。
この日は「だれでもできる応急手
当」について応急手当普及員の武島
功一・防災士(中央支部)が、身近に
あるストッキングやレジ袋などを使
つて骨折、出血時の応急救置法を
指導しました。
同校区自治協議会は今後、地域
防災態勢の見直し、強化を図ってい
く方針ですが「古き良き時代の『向
こう3軒両隣』の関係が防災には
何よりも必要。これが地域力の原
点だ」と再創出に期待を寄せる声
も出ています。
参加者の1人は「リアルな映像を
見せてもらい、防災とは何にか、
につきりリーダーとしてもっと勉強
しなければ」と、目覚め
た思いです」と話して
いました。



ストッキング活用応急処置



ゼリー状固化する簡易
トイレの実演

早良区西新校区自治協議会は、防災意識の啓発と実践活
動に力を入れていますが、このほど、西新公民館で「よみうり
防災セミナー」が開かれ、参加した自治協議会のほか校区自
主防災会などの役員、一般住民ら約60人が「安全、安心の
地域」づくりを強めていくことを確認しました。
読売新聞社、読売テレビが共同で製作した阪神・淡路大震
災などの映像や新聞記事を教材に座学。災害時の行政、警
察、消防、自衛隊など公的機関による救援にも限界がある
ことを認識し合ったり、助け合いに欠かせない近隣とのコミュ
ニティづくりの必要性についても改めて学びました。
応急手当普及員の資格を持つ武島 功一・防災士(中央区)
による救命救急法の実技指導や避難所などで問題となるト
イレ不足に対処した簡易トイレの「薬剤実演」もありました。
このセミナーは校区自主防災・防犯協議会や校区自主防災
会、校区男女参画協議会などが一体となって開催したもの
で、スタッフによる役割分担の手際の良さもあって、セミナー
終了後に行われたアンケートでは「大変、すばらしい内容だっ
た」などと印象が綴っており、上々の評判でした。

西新校区で防災セミナー 災害時に対処 簡易トイレの実験も

防災態勢の見直し・強化へ 地域力は「向こう3軒両隣」から

会員同士の連携促進へ

城南支部では他の支部のように定期的な報告会や博多あんあんリーダー会としての地域活動が行えず、申し訳なく思っているところです。

しかし、支部員(防災士)のなかには独自で地域の防災活動に積極的に参加されている方々もおられますので、このような方々と情報交換できる場を設けて、支部チームとしての活動に繋がればと考えています。

そうした中、さる11月21日(土)には福岡大学市民カレッジ「あなたならどうする? 災害から命と財産を守る法」が開催され、城南支部の会員が他の支部の協力を得ながら、クロスロードのテーブルファシリテーターとして中心的役割を果たしました。(詳細は次号で)

こんご、当支部会員同士の連携を深める中で相互の協力態勢を充実、支部の盛り上げを図っていきたくと考えております。(城南支部長 別府 寿男=防災士)



消火器持ってピンキオで的を狙つて 土嚢を作り 子供もバケツリレー

西支部では、二つの防災訓練をサポートしました。9月20日の
愛宕校区自主防災会主催の防災運動会では、毛布と竹竿による
担架づくり、止血方法、消火器による風船割りと的倒し、そして
バケツリレーが行われ、おもに校区の自主防災メンバーおよそ90
人が参加しました。
また、11月15日の玄洋校区横浜西町内会の防災訓練でも、
ほぼ同様の内容でしたが、こちらは災害時を意識して、町内108
人が組長さんのもと組単位で訓練が行われ、特に組対抗バケツリ
レーは、「ゴアラのマーチビネット保存缶」を目指して盛り上がり
ました。
尚、今回は、西支部メンバーだけでなく、他支部の助言、応援を
受け、更に地元の防災士や救急救命士との協同が行われたこと
が特徴でした。また、開催にあたっては、地元の方々と何度も打ち
合わせを行い、当初の「ピンとこなかった」状態が、地元の方の「消
火器的作成」といった状態まで盛り上がりました。西支部では、
今後も町内会単位の防災訓練をサポートする予定です。

二地区で防災運動会 面白かった、またしたいと子供の声

編集後記

防災士の資格も役割も人口に膾炙(かいしゃ)しているとは言えません。アピール不足が、いつかの定例幹事会でも指摘されたことがありました。

「防災士の制度そのものが出来てから日が浅いので」などという言い訳はよしませう。低い知名度を引き上げる努力をもっとすべきで、その結果として地域社会の理解と協働が広く厚く実現していくならば「命と向き合う」私どもの生き方も報われるというものです。

手近かなところでは、本通信の記事を書く際に意識して「防災士」という立派な固有の名詞を大いに使ってみるのも良いのではないのでしょうか。(阿比留)



みんなで 防災!

博多あんあんリーダー会は平成22年3月20日開催予定の「防災どんたく ”みんなで防災!”」の主幹事をしています。これは、福岡県内の市民団体、個人、地方公共団体、企業、が一緒になって「楽しみながら身に付ける」をテーマに開催する防災イベントです。詳しくは下記のWeb.ホームページを参照下さい。 URL : <http://bousai-don.hp.infoseek.co.jp/>